

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年9月9日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992500011		
法人名	社会福祉法人 ふるさと自然村		
事業所名	グループホーム ふたな		
所在地	〒789-1301 高知県高岡郡中土佐町久礼6002番地2		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果 市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの思いを知り、できることに視点をおき支援している。決められた一日の流れにとらわれず、天候、入居者の状態等に応じて、柔軟かつ活動的な生活の支援を心がけている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3992500011&amp;SCD=320">http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3992500011&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成22年7月23日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は日当たりが良く、周りは広々とした田畑が広がり四季を感じることができる。また、同敷地内に法人の養護老人ホームが併設され、合同行事を通じて地域との関わりを深めるなど、事業所全体が生活感にあふれ、利用者は自由に生き生きと思い思いに暮らしている。職員も毎月ホーム喫茶を開催し、家族や地域住民の利用を通じて触れ合いの機会を設けたり、地域住民に野菜づくりを習ったり、災害時の応援体制を取り付けるなど、地域とともに支え合う関係づくりに取り組んでいる。今後も、利用者の馴染みの関係の継続支援や家族等との協働により、さらに地域に密着した事業展開を期待したい。
--

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名： 東 棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を念頭に、一人ひとりの思いを知り、利用者が生きがいをもち明るく生活して頂けるよう、日々のケアの場面や取り組みの中で、確認しながら理念の実践につなげている。	地域密着型サービスの理念を職員全員で話し合い作成している。朝の申し送りやサービス提供時に、その都度理念を振り返り、職員間で共有し、理念の具現化に努めている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田役や地区の防災訓練に参加したり、小学生、保育園児との交流、ホーム喫茶を開催するなど、地域との交流に努めている。また、地域住民に野菜づくりを伝授してもらったり、ホーム周辺の草引きも一緒に行っている。	自治会には加入していないが、地域の行事等は近隣の住民や職員から情報が入り、田役や防火訓練等に参加している。また、地域住民に野菜づくりを教えてもらったり、月に1回のホーム喫茶を利用してもらうなど、地域との交流に努めている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や知人に認知症について理解してもらうよう説明したり、実習生を受け入れている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、サービスの実施報告・評価への取り組み状況の報告を行っている。頂いた意見は真摯に受け止め向上に努めている。	事業所から運営状況等を報告し、参加委員から質問や意見等が出され助言をもらったり、事業所から運営に対する協力依頼をしている。評価結果について報告しているが議事録に記載されていない。	地域交流など会議題によって地域の代表者に参加してもらうなど、柔軟に会議を運営するとともに、評価結果の報告や対応等について話し合いの内容が解るよう議事録を充実するよう期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者の状況や入・退居者の報告、運営等について相談し、助言を得ている。入居者の選定に当たっては、地域包括支援センターの情報や意見を聞きながら行っている。	制度の運営や利用者のケアについて助言をもらったり、入居に関する意見を聞くなど、町の担当課や地域包括支援センターとの連携に努めている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し、職員会や申し送り時に報告を受け、身体拘束をしないケアの理解と実践に努めている。継続的な取り組みや内容の充実を図ることを課題としている。	身体拘束に関する研修や学習の機会を通して、身体拘束をしないケアを実践している。日中は玄関等を施錠せず、外出傾向のある利用者を把握し、外出の際は一緒に自宅まで行き帰ってくるなど支援するとともに、地域の方に見守りを依頼している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、職員会や申し送り時に報告を受け、虐待防止の学習と、職員の心の変化、体調等に気を配っている。継続して学習を深めていくことを課題としている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は外部研修を受講し、必要時には説明できるよう努めている。全職員の理解までには至っていない。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にはご本人、ご家族の希望を聞き、契約内容や重要説明事項に沿って、グループホームとしてできることやリスク等について説明し、理解を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談機関を見やすい位置に掲示するとともに、入居後も、家族等に説明している。面会時や状況報告時に意見を聞くように努めている。	家族会や行事等への家族の参加は少ない。職員の配置等に対する要望等があり、申し出のあった家族に個別に説明し理解を得ているが、運営推進会議への報告や他の家族と共有が成されていない。	多くの家族に事業所の行事に参加してもらおう働きかけ、併せて家族会を開催するなど、事業所運営等につなげたり、家族の意見や思いを汲みあげる工夫をするとともに、家族の意見等への対応については、家族会等で共有することを期待したい。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会、申し送り時に意見等を聞く機会をもっている。その都度気づきなどの発案があり、運営に反映させている。	朝の申し送り時に意見等があれば検討し、できることから実施している。事業所内の職員の配置等について話し合っている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者から職員一人ひとりに労いの言葉がけがあり、また、職員旅行、忘年会等にてリフレッシュできるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は定期的開催している。また、外部研修への参加機会の確保や支援体制もあり、自己研鑽を促し、資質の向上支援をしている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内事業所との交流や他法人の事業所との交流会、地域のネットワークに関する会などに参加し、サービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初には、慣れない環境への不安の解消やご本人の思いを知るため、傾聴に努め、職員間で共有できるよう記録を細かくとっている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや要望を聞くとともに、入居当初はご本人の様子を知らせるなど、安心していただけるように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意見を聞き、利用できるサービスをインフォーマル面も含め説明し対応している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の気持ちを大切に野菜の作り方、料理等を日々教えていただき、共に暮らす者として互いに共感し合える関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人の近況、状況を適時報告し、家族の話は職員間で共有している。行事参加への声かけや家族会時に時間の共有を図っている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人、知人の方に訪問してもらうよう努めている。また、住み慣れた自宅周辺に出かけたりしているが、限られた入居者にとどまっている。</p>	<p>帰宅や馴染みの美容院の利用は家族の協力を得て実施している。希望に応じてドライブ時に自宅周辺に行ったり、行きつけの量販店で知人に会うなど、関係が継続できるよう支援している。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者の性格や、その日の体調、気分を見極め、時には職員が間に入り支え合う関係づくりに努めている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後も情報交換を行い、再入居も可能であることも説明している。亡くなられた場合にはお通夜に出席している。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の言葉や表情、行動から思い、意向の把握に努めている。意思表示の困難な入居者には、家族から情報を得るようにし思いの適切な把握に努めている。</p>	<p>フェイスシートや包括式アセスメントシートで、生活、身体機能等、その人らしく暮らすことができる情報を把握している。また、意思疎通の困難な利用者には、家族等から聴取したり、本人の表情等から推測するなど、一人ひとりの利用者の思い、希望等の把握に努めている。</p>	
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の状況や情報について、家族や担当ケアマネージャー等と情報交換を行い把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活リズムを大切にし、現在、できることに視点を置いた支援をしている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や状況・状態報告時に意見を聞き、担当職員を始め職員の気づきを共有し、本人の思いを第一に計画を作成するよう努めている。学習を深め、情報交換に努め向上を図ることを継続して行うことが必要。	家族や利用者の意向を聞き、担当制の職員によるアセスメントに基づきカンファレンスを行い、個別性のある計画となっている。状況の変化に応じて見直している。	外出傾向のある利用者の背景をアセスメントし、落ち着いた居場所づくりに取り組むなど、個別支援を高めていくよう期待したい。
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者毎の日々の生活状況等を記録し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かせるよう努めている。記録のあり方にはばらつきがあり記録の向上を課題としている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	予備室で、遠方の家族が宿泊可能であることを説明している。外泊や外出も入居者、家族の希望に沿って柔軟に支援している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、民生委員の方等にいつでも気軽に寄ってもらうように努めている。小学生、保育園児との交流や、併設施設の絵手紙教室に参加するなど、豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を重視し、従来からの病院で受診してもらうようにしている。医師や病院の相談員との情報交換も行っている。	利用者、家族の同意のもと協力病院をかかりつけ医としており、月2回の訪問診療を受けている。入居前からのかかりつけ医の受診は家族の通院介助を基本としている。受診結果は、介護記録に記載し職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員と連携を図り、健康管理や医療活用の支援を行っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換に努めている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成している。日頃から思いを知ることにも努め、重度化した場合には、ホームでの支援内容を理解してもらったうえで、本人、家族の希望を尊重して対応することになっている。	医療連携体制加算は受けていないが、自主的に看取り対応マニュアルを作成している。入居時には事業所ですることを利用者、家族等に説明している。今後、看取りの体制を整えていく予定をしている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に適切な対応ができるよう、実践を踏まえた内・外研修を継続して実施していく。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施している。地域の自主防災訓練にも参加し、地域の方からも入居者を安全に避難できる協力体制を築いている。	同敷地内の養護老人ホームが地域の避難場所に指定されており、地域の津波訓練に参加している。事業所独自の防災訓練には地域住民より支援の申し出があっているが、訓練への参加には至っていない。災害時の非常用食料等は養護老人ホームと一緒に準備している。	災害時の地域住民の協力体制もできつつあり、引き続き事業所からの呼びかけを行い、地域住民の防災訓練への参加が実現するよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は、人生の先輩であることを常に心にとめ、また、理念のもと尊厳を守るようケアに努めている。	排泄誘導時に他の利用者に分らないように声かけするなど、利用者一人ひとりの誇りを傷つけないよう配慮している。また、利用者のプライバシーを他に漏らさないよう徹底している。なお、ポータブルトイレが居室で目に触れる状態であり、目隠しなどの改善が望まれる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションのとり方を常に学習しながら、本人の意思、希望を引き出すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の主体は入居者であることを意識し、入居者各々のペースに合わせた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者自身が、好みの衣服で生活できるような支援を心がけている。理美容は家族の協力により、馴染みの店に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくり、盛り付け、片付けは入居者と共に行っている。朝食は時間を決めず、各々の起床時間に合わせている。	利用者の希望を聞き献立をつくり、利用者は調理の下準備から盛り付け、片付けなど、持てる能力に応じて職員と一緒にしている。食事作りは、各ユニットで交替しながら一括して行うなど、食事を作る時間を少なくして利用者と過ごす時間を多く持つよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録し把握している。食事の形態や器の工夫を行い、必要な栄養、水分量が確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。入居者の能力に合わせ、見守りの方もいれば、ガーゼを利用し口腔内の清潔を図っている方もいる。歯科の往診も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の行動、表情で尿意を察したり、時間をみてトイレ誘導するなど、気持ちよくトイレで排泄できるよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、夜間は紙パンツを使用している利用者も日中は布パンツやパッドにして、できるだけトイレで排泄できるよう支援するなど、おむつはずしに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分の摂取量を把握し、運動、散歩等を行うとともに、牛乳やヨーグルト、食物繊維の多い食べ物を利用するなど、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調や希望に合わせて、希望の時間に入浴ができるよう支援している。	入浴の時間帯は午後となっているが、利用者の希望に沿って、概ね週に3回程度入浴支援をしている。入浴拒否のある利用者には、時間を替えたり、職員が複数で声かけするなど、工夫しながら支援している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態に応じ適宜昼寝するなど休息に配慮している。また、日中の活動性を高め、適度な疲労感のなかゆっくと眠れるよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員が把握できる体制をとっているが、全職員への周知徹底が課題となっている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりのできることを見極め、台所仕事、掃除、洗濯、畑仕事、野菜の収穫など、楽しみながら役割を持ち生活できるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者の希望に沿えるよう、できるだけ努めているが、周囲の状況により瞬時の対応ができない時が多い。	併設の養護老人ホームの東屋まで散歩に出かけたり、月に1回程度は、自宅周辺にドライブ行くなど支援している。	外出は、利用者全員で外出するのではなく、利用者本位に外出したい時に支援するなど、そのあり方について職員全員で検討することが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者自身で金銭管理を行うことは困難で、利用者同士が不穏になることもあり、外出時や必要時に家族に必要な金額を持ってきてもらっている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など、本人の希望に合わせて対応するようにしているが、希望する例は少ない。家族からの電話や手紙は取り次ぎ、絵手紙教室の作品を家族に送るなど支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所での食器の音、職員の足音、戸を閉める音等、入居者にとっては不快音となる場合があることを理解し、対応に努めている。ホールの窓からの風景は季節感を味わうことができ、また、畑の作物の成長を楽しんでいる。	対面式の台所で家庭的な雰囲気があり、利用者はソファや畳コーナーで、思い思いにゆったり過ごせる共用空間となっている。また、職員は生活の音や室温などに配慮し、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見晴らしよく一体化した空間である。ソファや食卓テーブル、畳のスペースと思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	収納スペースが充分であり、家具類の持ち込みは少ない。小物など馴染みの物を持ち参してもらい、心地よく過ごせるよう配慮している。	家具やテレビなど、利用者一人ひとりが馴染みの身の周り品を持ち込み、居心地良く過ごせる個性を活かした居室づくりに配慮している。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が混乱したり、不安にならないよう、状況や本人の気持ちに配慮しながら、表札やトイレの明示をしたり、のれんをかけるなど、自立した生活が送れるように努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名： 西 棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を念頭に、一人ひとりの思いを知り、利用者が生きがいを持ち明るく生活して頂けるよう、日々のケアの場面や取り組みの中で、確認しながら理念の実践につなげている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田役や地区の防災訓練に参加したり、小学生、保育園児との交流、ホーム喫茶を開催するなど、地域との交流に努めている。また、地域住民に野菜づくりを伝授してもらったり、ホーム周辺の草引きも一緒に行っている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や知人に認知症について理解してもらうよう説明したり、実習生を受け入れている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、サービスの実施報告・評価への取り組み状況の報告を行っている。頂いた意見は真摯に受け止め向上に努めている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者の状況や入・退居者の報告、運営等について相談し、助言を得ている。入居者の選定に当たっては、地域包括支援センターの情報や意見を聞きながら行っている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し、職員会や申し送り時に報告を受け、身体拘束をしないケアの理解と実践に努めている。継続的な取り組みや内容の充実を図ることを課題としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、職員会や申し送り時に報告を受け、虐待防止の学習と、職員の心の変化、体調等に気を配っている。継続して学習を深めていくことを課題としている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は外部研修を受講し、必要時には説明できるよう努めている。全職員の理解までには至っていない。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にはご本人、ご家族の希望を聞き、契約内容や重要説明事項に沿って、グループホームとしてできることやリスク等について説明し、理解を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談機関を見やすい位置に掲示するとともに、入居後も、家族等に説明している。面会時や状況報告時に意見を聞くように努めている。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会、申し送り時に意見等を聞く機会をもっている。その都度気づきなどの発案があり、運営に反映させている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者から職員一人ひとりに労いの言葉がけがあり、また、職員旅行、忘年会等にてリフレッシュできるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は定期的開催している。また、外部研修への参加機会の確保や支援体制もあり、自己研鑽を促し、資質の向上支援をしている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内事業所との交流や他法人の事業所との交流会、地域のネットワークに関する会などに参加し、サービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初には、慣れない環境への不安の解消やご本人の思いを知るため、傾聴に努め、職員間で共有できるよう記録を細かくとっている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや要望を聞くとともに、入居当初はご本人の様子を知らせるなど、安心していただけるように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意見を聞き、利用できるサービスをインフォーマル面も含め説明し対応している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の気持ちを大切に野菜の作り方、料理等を日々教えていただき、共に暮らす者として互いに共感し合える関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況、状況を適時報告し、家族の話は職員間で共有している。行事参加への声かけや家族会時に時間の共有を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方に訪問してもらうよう努めている。また、住み慣れた自宅周辺に出かけたりしているが、限られた入居者にとどまっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や、その日の体調、気分を見極め、時には職員が間に入り支え合う関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も情報交換を行い、再入居も可能であることも説明している。亡くなられた場合にはお通夜に出席している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の言葉や表情、行動から思い、意向の把握に努めている。意思表示の困難な入居者には、家族から情報を得るようにし思いの適切な把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況や情報について、家族や担当ケアマネージャー等と情報交換を行い把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活リズムを大切にし、現在、できることに視点を置いた支援をしている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や状況・状態報告時に意見を聞き、担当職員を始め職員の気づきを共有し、本人の思いを第一に計画を作成するよう努めている。学習を深め、情報交換に努め向上を図ることを継続して行うことが必要。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者毎の日々の生活状況等を記録し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かせるよう努めている。記録のあり方にはばらつきがあり記録の向上を課題としている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	予備室で、遠方の家族が宿泊可能であることを説明している。外泊や外出も入居者、家族の希望に沿って柔軟に支援している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、民生委員の方等にいつでも気楽に寄ってもらうように努めている。小学生、保育園児との交流や、併設施設の絵手紙教室に参加するなど、豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を重視し、従来からの病院で受診してもらうようにしている。医師や病院の相談員との情報交換も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員と連携を図り、健康管理や医療活用の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成している。日頃から思いを知ること努め、重度化した場合には、ホームでの支援内容を理解してもらったうえで、本人、家族の希望を尊重して対応することとしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に適切な対応ができるよう、実践を踏まえた内・外研修を継続して実施していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施している。地域の自主防災訓練にも参加し、地域の方からも入居者を安全に避難できる協力体制を築いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は、人生の先輩であることを常に心にとめ、また、理念のもと尊厳を守るようケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションのとり方を常に学習しながら、本人の意思、希望を引き出すよう努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の主体は入居者であることを意識し、入居者各々のペースに合わせた支援を心がけている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者自身が、好みの衣服で生活できるような支援を心がけている。理美容は家族の協力により、馴染みの店に行っている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくり、盛り付け、片付けは入居者と共に行っている。朝食は時間を決めず、各々の起床時間に合わせている。		
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録し把握している。食事の形態や器の工夫を行い、必要な栄養、水分量が確保できるように努めている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。入居者の能力に合わせ、見守りの方もいれば、ガーゼを利用し口腔内の清潔を図っている方もいる。歯科の往診も受けている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の行動、表情で尿意を察したり、時間をみてトイレ誘導するなど、気持ちよくトイレで排泄できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分の摂取量を把握し、運動、散歩等を行うとともに、牛乳やヨーグルト、食物繊維の多い食べ物を利用するなど、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調や希望に合わせ、希望の時間に入浴ができるよう支援している。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態に応じ適宜昼寝するなど休息に配慮している。また、日中の活動性を高め、適度な疲労感のなかゆっくりと眠れるよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員が把握できる体制をとっているが、全職員への周知徹底が課題となっている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりのできることを見極め、台所仕事、掃除、洗濯、畑仕事、野菜の収穫など、楽しみながら役割を持ち生活できるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿えるよう、できるだけ努めているが、周囲の状況により瞬時の対応ができない時が多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者自身で金銭管理を行うことは困難で、利用者同士が不穏になることもあり、外出時や必要時に家族に必要な金額を持ってきてもらっている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など、本人の希望に合わせて対応するようにしているが、希望する例は少ない。家族からの電話や手紙は取り次いでいる。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所での食器の音、職員の足音、戸を閉める音等、入居者にとっては不快音となる場合があることを理解し、対応に努めている。ホールの窓からの風景は季節感を味わうことができ、また、畑の作物の成長を楽しんでいる。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見晴らしよく一体化した空間である。ソファや食卓テーブル、畳のスペースと思いきいの場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	収納スペースが充分であり、家具類の持ち込みは少ない。小物など馴染みの物を持参してもらい、心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が混乱したり、不安にならないよう、状況や本人の気持ちに配慮しながら、表札やトイレの明示をしたり、のれんをかけるなど、自立した生活が送れるように努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない